常磐毎日新聞

日刊

十一月七日 夕刊

定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵稅五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
福島縣平町（平・長橋町三九）
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社
（振替口座）東京 四〇二一〇番

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

相次ぐ餘震に
膽のすわつた逃腰振り
既に回數は六十余！
「今迄に稀れ」と故老の談
震動の力はだん／＼減る

五日午後五時四十三分の強震の來襲に相次ぐ頻々たる餘震に戰々恟々たる夜を送り明けて六日は何事もない紺碧の秋空、是れで地震も納つたものと一安心の處へ夕方の同時刻頃に又もや可成り物凄いのがお見舞ひして市民を脅かし、けふ七日は早朝から幾回となく震動の連續だ、鯰先生の御機嫌が仲々直らない

震源地は宮城縣金華山南方約八十粁で本縣鹽屋岬北々東約九千粁に當り海底に大陷沒があつた爲めと見られ

人家や土藏等の全、半壞や、物置や板塀、煙突の倒れたもの、商品の損傷地辷り、山崩れ、龜裂等も少くない模樣だが人畜には被害はない、鐵道、遞信方面の故障も大努力で修復、人々も今では搖れるのに馴れ切つて最初程は慌てず手廻しの品等を風呂敷に包んでサアと云ひばパッと戶外へ飛び出せる逃げ腰の姿だ、故老の談に依れば未だ且つて經驗のない強震であるとの事だが地震計の針を飛ばして終つた小名濱測候所の觀測では餘震は既に六十餘回に及んで居るが、だん／＼力が衰へて來て居るから心配はあるまいとの事である

平女青の作興强調

けふから實施される國民精神作興週間に際し平女子青年團では本年は國民精神作興に關する詔書渙發十五周年に當るのを機とし更に强調するため左記要項を實施することになつた

△七日—健康診斷を行ひませう△八日—三十分以內は徒步にいたしませう△九日—安價なる榮養の工夫をいたしませう△十日—早朝參拜（午前六時國員一齊）詔書並に勅語奉讀△十一日—空地の利用を工夫いたしませう△十二日—屑物整理賣却いたしませう△十三日—不必要品の交換賣立奬勵のこと

幹部座談會

既報過般第一回幹部講習會を開いた平市聯合青年團では明八日午後七時から市內湯本無盡會社階上で出席者の座談會を開く

被害拾萬圓以上

別項、石城地方を襲つた強震の被害は鹽屋岬燈臺の故障で昨夜から灯がつかず無電裝置も不能に陷つたのを始め平市水道の故障洩水三百餘及び內郷村字宮地內杉山二反步の地崩れ、江名小名濱間の縣道龜裂や沿道の山崩れで交通杜絕其他の被害枚擧に暇ないがけふ正午迄に平署に通報し來つた被害報告に依れば

▲人家の全倒壞四（豊間一、小名濱三）▲同半壞九（江名一、湯本八）▲同一部損壞、平市の百八十戶を初めとし一千四百卅九戶等あり人家の損害額は二萬四千六百七十圓、道路四千百圓、其他商店々頭の商品等の損害五萬二千四百八十七圓で是れ丈を合計しても八萬一千二百五十七圓に達して居るから此の外炭礦方面や調査洩れを合算すれば總額十萬圓以上と觀られ今更らながら被害の甚大なのに一驚を喫する外はない

煙草販賣の奬勵表彰式

郡山專賣局の煙草販賣奬勵表彰式は明八日行はれるが平出張所管內で表彰される小賣人は左の如くである

△平市柏原義一△小名濱町小野國吉△植田町本田一△內郷村薗部末造△四倉町長谷川儀平△湯本町武藤政雄△上小川村草野重松

永戶現役兵

永戶村の現役並に補充兵證書授與式は四日同村役場で擧行

江名自治功勞表彰

江名町では自治制發布五十年記念として去る明治節の佳辰をトし作山町長から左記諸氏を表彰一路自治の爲めに健鬪を乞ふ事となつた

（十二年以上の町議）太濟左衛門、近藤吉松、小松金十郞、加澤一造（現町議）及川富士太郞（前町議）河野嘉藏、前町長收入役吉田茂左衛門、書記新妻和平、小泉安雄、吉原壽男以上吏員（感謝狀）鄉軍分會長吉田正雄、消防組頭加澤一造、時の功勞者吉原龜吉

尙物故者に對しては不日慰靈祭を執行すると

磐城地方は古來
大地震や海嘯がない
小名濱測候所 小磯所長談

磐城地方は九十九里濱以北金華山沖合まで陸地から六十キロ乃至百キロを離れた海中に通つて居る、其處に地下變動が起つて震動を感ずるものである、所が磐城海岸は一般に岸盤が厚く其上に砂質層が六七十尺も深い關係から震動はあつても被害は殆と絕無と云つてよい、これを過去三百年前に見るも正保三年四月二十六日（今年より二百九十二年前）の地震は相當のものであつたとあるが被害程度の記錄はない、勿論海嘯もあつたと書いてない處から見て絕對安神との烙版を押せる譯だ、所で三陸地方の震災と海嘯は餘りに有名であるが、之れは岸磐の無い所に自然的のリアツ式地帶即ち山と山との間に港灣が在る關係で怒濤が更に尨大して陸上を襲ふ點が磐城地方と相違して居る、磐城地方は天然の良港には惠まれないが港灣の間口は廣大だから海嘯の心配は絕體にないと見て間違ひはない、今回海嘯の非語もあつたので潮の干滿の差を計ると五日は一米八センチ、六日は僅三十二センチの高さが平生より高いだけでこれでは海嘯には成りたくつても成れないと云ふ事になる、故に學理に準據して考ふる場合現時の地震學では磐城地方は絕對安心してよいと思ふ。尙ほ昔の俚諺に地震で氣象が變ると云ふが學說からでは信ずべき何物もない、尤も氣象學者間にも氣壓が最高潮に上り切つて降り初めた瞬間に地震が起る例はある、丹波の大地震がそれであるが先づ氣象には關係がない

……（力强い銃後風景點描）……

官服を脫ぎ
駐在巡査も手傳ひ
高久村の奉仕

高久村では村內の戰死者及び出征家族の稻刈りが遲れては戰線の兵隊さん達に申譯ないとて各部落の國防婦人會員が一戶一名宛出動した男子と共に勞力を奉仕することになり上、下山の部落は二、三の兩日馬場野部落は四日各日の丸の旗を掲げて銃後の晴れやかな稻刈りを行ひ力强い銃後風景を展開遺家族達を感激せしめたが同村駐在白木巡査はこの稻刈に官服を脫ぎすて自ら鎌をとつて作業に從事各關係者から賞讃されてゐる

選炭の勤勞奉仕
その金を恤兵費に寄附
高坂の女子青年團

內郷村磐城炭礦住吉坑高坂女子青年團員六十名は幹事長指導の下に四班にわかれ一ケ月間に亙り日曜日毎に選炭その他の勤勞奉仕作業實施してゐたがこの程二十七圓になつたので恤兵金に獻金した

稻苅奉仕

赤井村大字高萩部落銃後會員四十五名は去る二日數班にわかれ部落出身の出征軍人留守宅の稻刈を奉仕した

戰友の
冥福を祈る

赤井村大字四小川出身平澤正男上等兵は目下北支方面で活躍中だが名譽の戰死を遂げた同村出身の戰友吉田、鈴木兩勇士の冥福を祈るため村役場を通じ各遺族に三圓宛六圓を送金關係者を感激させた

慰問金供進

赤井村三島農田久豊秋氏長男信夫君は目下中支戰線で活躍中だがこの程父豊秋氏は遺家族慰問金として縣知事から贈られた金一封を村內出征軍人の武運長久のため村社諏訪神社に祈禱料として全部供進關係者から感謝されてゐる

家を忘れ
斷然軍服に

高久村大字下高久農國井重三郎君（三二）は幼い頃兩親に死別たつた一人の實兄平三郎上等兵も目下〇〇戰線で活躍中の銃後を守つてゐたが徵兵檢査に甲種合格、家には一人もゐなくなるので村役場ではいろ／＼心配してゐたところ同君はこの非常時に家など省みてゐられないとて選外徵兵願ひを福島聯隊區へ提出明春晴れて入營することになり村民はみなこの赤誠に感激銃後の一切は村民の勤勞奉仕によつて固く護ることになつた

獵天狗の數より
獲物の方が尠い

獵友會植田支部の競獵會はこの程終つて上遠野村の山野で擧行、終つて同村坂本屋旅館で總會を兼ね狩獵報國會發會式を行つたが參加四十名、獲物は獵天狗連の頭數より少なく雉三羽、兎二羽、小鳥一羽だつた

見事金的
小名濱の榮花氏

福島精射會會並に縣廳弓道會主催の縣下弓道大會は六日午前九時から福島武德殿で開催されたが小名濱町の榮花淸氏は個人競射で金的の榮冠を獲得した

小名濱支局通信

郡內町村農會長の佐渡ケ島視察
支局長 小野務平

▽鶯郡農會長の談△

我帝國が開闢以來農本國である事は今も昔も變りはない西洋文化の輸入と工業の發達とは純朴な農村子弟をして西洋化せしめた陰にも農は國家の大本であると云ふ千古不磨の大典は古今を通じて搖ぎなき帝國の憲法となつて遵守して居るのが現在である。此意義から上に帝國農會を置き府縣郡町村に向つて皆農會の組織となつて一脈相通の實を擧げて居るのが現在の農村振興の大動脈がそれである

本郡は郡農會長として鶯淸昇君を推し各町村には町村長若くは其他の德望あり篤農家を推して會長たらしめ同一步調の下に行進を同ふして居るのであるから共陣容に至つても堂々たるものであつて何れも豪農家揃へと言ふて敢て差支へないまでに整つて居る、この堂々たる陣營から伊藤（飯野村長）金成（好間）中里（湯本）荻野（永戶）上遠野（入遠野）小澤（田人）草野（赤井）志賀（鹿島）水野（渡邊代理）各町村農會長と鶯郡農會長とが一團となつて米產地としての名を博して居る新潟縣殊に佐渡ケ島の視察として然かも郡內ピカ一揃への一行が去月二十三日午前八時半平發の郡山行列車に乘り込み四日の日子を視察に費した其の視察談を鶯郡農會長の口から左の如く語るのである

一行中には伊藤飯野村長の如き本郡の町村長の縣支會長や武斷的の政治を斷行せんとする志賀鹿島村長などが居て各種各樣の自慢話しや視察談で途中面白く午後五時過ぎに新潟に到着した、新潟第一流までには行かぬが大野屋別館に兎も角旅裝を解く事にした

翌二十四日午前八時佐渡ケ島行きの佐渡丸が出帆となつたので一行は急ぎ埠頭に駈けつけ乘船するに至つた、此日西北の風はあつたがそれが爲め日本晴れで海上又穩かなる事壘の上を辷るが如く常に船醉する連中は聊かも氣分を惡くする樣な事もなく正午佐渡ケ島の關門兩津港に上陸した、豫定としては金澤村信用組合、金澤病院、同農會を視察して相川まで進む筈であるので息つく間もなく海上から陸上、而して自動車などに乘り換へ進行するので老人の湯本、入遠野各會長などは聊か不平の態であつたが武勇傳中にある志賀會長などの强行軍に狙れた祖道役に强へられ一行遮二無二金澤村まで一氣呵成に自動車を飛ばしたのであつた

（未完）

玉川村の
勞力奉仕
一齊に出動

玉川村銃後會は宮內會長指揮の許に各大字區長を班長とし副區長を副班長として勞力奉仕班の結成に勉め繁農季に臨みては出征將兵遺家族に對して勞力奉仕をして來たが愈秋季收納時節となつたので明治節の佳辰をトして班長を召集し四日より一齊に勞力奉仕を決行し遺家族をして手不足の憾をなからしめつゝ銃後の赤誠を充分に發揮して居る

幼兒即死
路上で遊戲

植田町字本町雜貨金物商大野勝郎さんの二男連平チャン（六ツ）は五日夕自宅前道路で遊戲中疾走して來た平市片倉製糸工場運轉手遠藤一二（三二）のトラックに轢かれて即死した

無免許罰金

四倉町字本町自動車運轉助手樋口梅雄（三）は去月十九日無免許で四倉—草野間トラックを運轉五日平區から自動車取締令違反で略式科料十圓に處された

農閑の竹細工

植田町菊田實業學校の農閑期副業指導竹細工講習會は十二日開かれる

煙草耕作
懇談會開く

濱三郡煙草耕作組合長の懇談會は來る十日平出張所で開かれる

玉川に電話

玉川村役場では宮內村長並に長瀬助役協力の許に經濟更生村として時のサイレン設置の要を認め目下其計畫中であるが之れと同時に目的達成の爲めには役場事務の能率を擧げる必要上電話架設の急を告げ此程村會の協贊を經て役場內に小名濱局管內として設置する事となり目下測量中であるから日ならずして加入局と通話が出來る事となる筈

體育協會
支部對抗
昨日の戰跡

縣體育協會主催各支部對抗體育大會は既報の如く六日午前八時半から磐中グラウンドで佐川會長、山本體育主事臨席の下に擧行、參加支部平、石城、双葉、相馬、田村、福島、安達、伊達の八チームで覇を爭つたが結局陸上競技は双葉、劍道は安達、柔道は相馬、籠球は伊達の各支部が優勝、平支部は陸上競技五位、劍道二位、柔道四位、籠球四位、石城支部は陸上競技二位、劍道三位、柔道三位、籠球二位であつた、市內に於ける入賞者は左の如くである

△百米二等第三校根本芳男△走巾跳三等同人△砲丸投二等第三校西卷淸富、四等第一校齋藤榮△劍道一等第三校大友能一

ラヂオ JOHK

今晚の部

▼後六、〇〇（子供の時間）音樂劇「空の荒鷲」大阪音樂劇研究會、大阪ラヂオオーケストラ
▼後六、二〇 コドモのシンブン 關屋五十二
▼後七、〇〇 ニュース
▼後七、三〇 特別講演「失明傷痍軍人寮並に失明傷痍軍人教育所の開設に當りて」傷兵保護院業務局長持永義夫
▼後七、四〇 講演「長期建設と國家總動員」文部大臣男爵荒木貞夫
▼後八、〇〇 吹奏樂と軍歌、陸軍戶山學校軍樂隊
▼後八、四〇 箏曲「冬の曲」（本手）津田青寬（替手）岡本鶴子
▼後九、〇〇 ラヂオドラマ「婦人從軍歌」（額田六福作）夏川靜江

明日の部

▼前一一、〇〇 連續童話劇「シャボン玉とんだ」出演ナカヨシクラブ
▼後〇、〇五 秋俚謠、山俚謠、盛岡音樂と合唱、岩手醫學專門學校音樂部
▼後二、〇〇 小學生の時間「尋五」國民劇「源平時代」大阪國國史劇研究會
▼後六、〇〇（子供の時間）お話「明日のお天氣」理學博士中村左衛太郎
▼後八、〇〇 室內樂、鈴木グワルテット
▼後九、一〇 尺八「本曲鈴慕流」大數秀嶺
▼後九、二〇 民謠組曲「みのりの秋に」

御知らせ

今般松ケ岡公園『尼子亭』を引受け割烹御旅館を經營する事になりました、一流の料理人を聘し時節柄格安に皆々樣の御口に召すやう精々努力致します。

お座敷も綺麗に致しました。秋の眺望絶佳御來遊を御待ち致します。

（特製）水たき、江の島なべ、よせなべ
御婚禮、その他の御宴會は御相談に應じます
▽……御家族連御歡迎申上げます。
▽……サービスとして早朝から藥湯の設備があります。

平市・松ケ岡公園內
割烹 御旅館 尼子亭
青柳テル
電話 二三〇番

温かい飲物
輕い御食事 を始めました。
獨特なコーヒー……10
マルサ ランチ……35
銃後に誇る實價 第一主義の御奉仕
平・二丁目 マルサ
電374

愛憎三度笠
吉川延 作　瀧 秋方 畫

…三（111）…

青すだれ 四

「いゝえ、[illegible]でございませう」

女中は、いやに大助に追及した。

「いや、そんなではない、全く俺は町人ぢや」

「益々」

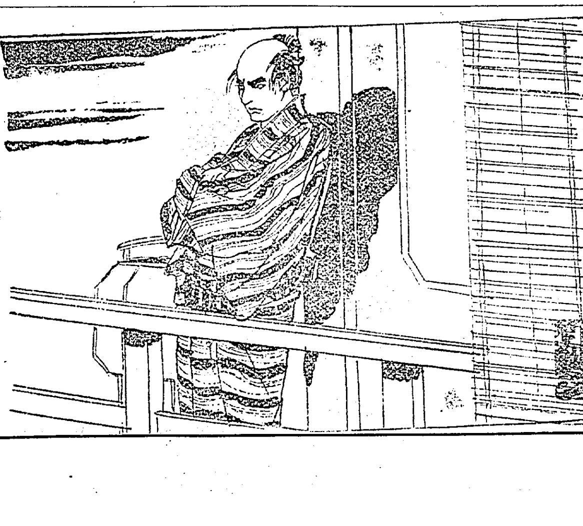
女中は承知をしない、この時

「お客さん！」

と、甲高い聲とともに、三人連れの男女の客が、ずーつと入つてすだれ越しの次の席に陣取つた。

燈籠にきらめく、灯の光が、螢火のやうに簾の隙をもれて、流れて來る。

三味の、しめやかな情調のあ



る音色が聞こえ出して來た。

簾一重の青すだれであるが、灯の光が朦朧で暗いがために、陰影を見入るやうに、その人達の顏ははつきり分らなかつた。

「おゝ松千代はん、あんたアもうおひきやしたのやとなア」

と、かゝりの女中の話が、大助の耳に入つた。

大助は、思はず慄然として、その聲の主を凝視せずには居られなかつたのである。

「エヽ、その節はいろ／＼御ひいきに預かりまして……」

と、松千代の聲である。實は今夜、松千代に逢ひたさに、鴨川添ひの料理屋に來てゐながら、松千代の落籍を聞かされた時、偶然にもおしんに逢つた。そのおしんが何ういふ都合か自分を三條北廓の、この料亭に案内したのである。

「どうも、あの女には秘密が多くて困るやうにも思はれる。

やはりと思つた、松千代が既に席に來てはゐるが、どうやら二三のお客と一緒であるらしい。

それで、自分の方から聲をかけていゝやら、悪いやら、一寸見當がつきかねて居た。

「旦那、何を思案をしておいでやす」

と、仲居は酒をすゝめる。

晝は暑さにあへぐ京の町も、夜に入ると、何處からともなく涼しい風が川面を離れて、水のせゝらぐ音までが涼しさうであつた。

「いや、別に思案もしてゐないが、俺はもう歸らうか」

松千代の樣子が、自分の想像してゐた女と違つた、別個の女性を眼前に見た氣持である。

其處には落籍すと云ふ事實の奥に、情痴を挿んで、大助は衝へ初めたからであつた。

松千代は、隣の席に大助が居ることなど殆んど夢にも考へても見なかつた。で、一人の男に甘えるやうな口の利き方ではあるが、勿論、それは父とも、叔父とも慕ひする人に對する親密で、普通、男女の仲のかたらひでないことだけは分つてゐる。

だが、不思議に大助の神經は鋭敏になつて來たのであつた。

「あの、あそこに、姉ちやんが」

と、松千代が急に頓狂な聲を出した。

「どれ／＼」

と、云つた大きな男は、これは小野寺三郎らしい。

唯、三尺の青すだれを隔てたばかりの隣席であれば、河原に遊ぶ人の目には、[illegible]ぐらゐは燈火の具合で、識別することは出來たのに違ひない。

「あゝ、おしんだな、相手は誰だ」と、寺三郎が冷笑する。

おしんだが誰かな

「仕方がないね、あの人は」

と、これも[illegible]に苦笑する。

便利帳

雨靴は必ず二三回淸水をかけてから日陰乾にして乾かしておしまひ下さい。雨水には化學的有毒物が含まれてゐますから、使つた儘ですと革質を傷め早く腐らせてしまふことになります

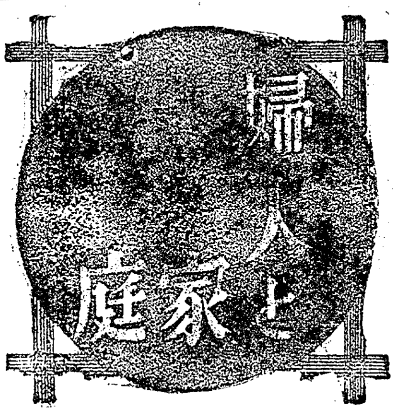
女の服飾の制限

時近雨子

カフエーやバー、その他に於ての男たちの浪費に制限を加へやうとしてゐる政府では今度は女の浪費の一番大きなものである服飾への制限を企てゝ百貨店の刺戟を緩和しやうとして新しい衣裳の製作や、ファッションショウをとりやめるやうに提案したといふことである。雙手をあげて賛成である

元來流行發生には二つある。一は女性自身生活様式の變化につれて發生するものと、商業主義の刺戟によつて流布されるものとである前者の方はこれは進歩的な結果なもので寧ろこれの流布は奬勵しなくてはならないが、後者の方は前者に追從する特別な場合をのぞいては大抵の場合有害無益の類である例として見よいとは申しかねるラッパズボンが横行したり娼婦まがへの化粧服裝が街にはんらんするのはこの二例である。だから、今度の商工省の企圖は大變結構なことで心ある婦人でこれに不贊成な人はない筈であるが、さてかうした急激な口頭が、どの程度實際に商業主義の横行を押へる事が出來るかといふことになると、多くの不安がある

中元廢止、贈引の禁止などあつても百貨店の賣上げは大小戰爭成金の出現のために、空前の賣上を示してゐるといふ。



物を活かせ

値段の高いものは、味はよくても必ずしも榮養價値が多いとは云へない、榮養價をとる點では鯛より鰯、にしん等、牛肉より兎、鯨の方が安價に攝取されるし、調味料を用ひて上手な調理法によれば味もよくなる

主婦達はよく調理法を研究して、すでに高價と定評のあるものより安價な物——例へば魚なれば鯛よりも鰯——に調理法を施用して安くておいしい榮養價値の高い食物をこしらへる事に精進せられたい

物寂しさを　秋は何故感じるか？

心理學的に　その謎を解く

秋は、どなたも淋しい物寂しい感じに襲はれるでせう「感傷の秋」とはよく云つたものです、では秋はこのやうに私達を感傷的にするのでせうか、次に心理學的にこのなぞを解いて見ませう

その第一の理由は氣温によるもので、高温は私たちを陽氣にしますが反對に低温は陰鬱にします。そして

春の 季節のやうに暖々あたゝかになつて行く場合には陽氣になり、反對に秋のごとく氣温が下つて行く場合には陰氣になるのです、それから第二の理由としては、いかに文化がすゝんできても、それ以前の永い太古時代につちかはれた動物的本能の潜在を否定することは出來ません、その時代、つまり太古に於て人類が動物生活をしてゐた頃には寒さに向ふと云ふ事は一大脅威でした

一體 人間は暑さには相當抵抗力がありますが寒さには非常によわいのです、從つて衣住の設備が發達しない大昔には冬になると云ふことに本能的な恐れを感じた事は疑ひない事で、また同時に冬に向ふ事は、今日のやうに食物の貯藏法を知らなかつた時代の人類にとつては、食物の缺乏を意味する大きな恐怖がありました、それで寒さの襲來も充分になつて寂しくなつても

食物 の入手に不安がない現代になつても、この恐怖の觀念は潜在的に持ちつゞけられ、それが變形してあらはれるのが秋の寂寥感です、次に第三の理由としては、太古の人類は前述のやうな狀態でしたから、秋ともなれば自分がいかにして越冬するかと云ふ事に專念するのがせいぐで、とても他人の世話まで燒いてゐられない、と云ふ非常に利己的な氣持、換言すれば孤立に陷りました、これが秋の

孤獨 感となつて現代人にまで潜在するとゝもに非常に內省的にするわけです、以上が秋と云ふ季節が齎す感傷の理由ですが、刺戟これに感應する程度は各人によつて異るもので、過敏な人や感性に富む人程その度がつよいのが普通です、そしてこの感傷は度がつよくなると、何んとかしてその

境地 から脱出したいと願ふやうになるものですが、この時物を誤ると様々な悲劇が生じます秋が春に次いで家出や誘惑の危險の多い季節であるのもそれがためです

放浪性は

「母から子に遺傳する」

結婚に際しては愼重に相手方の體質・血液等調べる必要がある

放浪性の研究は近代心理學の發達の上に非常に重大な役割を持つてゐます殊に見方によつては放浪性は近代人の特質であるかの如くにさへ感じられることがあります最近專門家の研究に依れば放浪性は母から息子に遺傳するといふことがあります、ここにはそれに關する新しい解説を御紹介いたしませう

秋は結婚が非常に多いといひますが、ましてこれからそろ〳〵新婚旅行が立ちはじめると一段と結婚が旅することでありませう、ところで人生の新しき出發に際しては飽までも愼重に相手を選ぶべきですが息子には母の性格が特に遺傳し易い場合が多いとされヒステリ性の母を警戒しなければならぬと云はれますが放浪性についても母方の血筋はよく確かめる必要がありますと云ふのは、これは必ず母から息子へ遺傳するとまで云はれてゐるからであります

例へばよく居留守をきめこんで遊び地方から汽車でふらりと東京へ現れたりするやうなひどい放浪者が多かつたり、さうでなくとも夫婦喧嘩をしたのでもないのに日中遊び廻つて宿舎にも歸らぬ婦人や、いまその先に嫁んできたと思つたのがいつの間にか消えてゐなくなつたり、やつと探しあんで連れて歸つて聞いて見ても、どうして行つたんだか自分にもわからないと答へる子供など——私達の周圍には放浪性乃至浪癖と云ふべき性質を多分にもつ人々を時折見受けるものです

この放浪性は人間の基本的な本能の一つですから誰でも多かれ少かれもつてはゐますが、かやうに放浪性が強くそのまゝに現れるものには、常人のそれと區別する特徴が少くとも三つあります

第一いこの放浪が起るのは全く衝動的で決して一定の計畫のないこと

第二は非理性的で起つた衝動をおさへる力が生れつきよはい事

第三には此の放浪が習慣的に起ること等であります

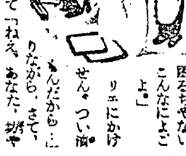
ところでこの放浪性は遺傳的だと傳へられて來ましたが、アメリカのウトリヤム氏は或る工藝學校の生徒について調べたところ、放浪性を示す家庭二十四家族の子供の三〇・四%は放浪性をあらはしてゐるのに對し放浪性でない家族二十四家族からは放浪性の子供は僅に一・二%しかないことをあきらかにしてゐます

しかも放浪性はダベンホート氏の研究によつてあきらかにされた如く劣性伴性遺傳をします、卽ち色盲の場合と同じく、女が放浪性をもつ爲には父も母も放浪性をもち、この因子が一緒にならねば起らぬのですが、男は片親から傳へられるだけの因子でたゞちに放浪性があらはれます、なほその片親と云ふのは母親に限つてをります、もしも母親に放浪性があらはれてゐれば生れる男の子は全部放浪者をもち、母に潜伏してあらはれでゐなくとも母方の家系に放浪者があれば、その母の子には或る程度の放浪性のものがあらはれます結局放浪性は女にあらはれることは極めて稀ではありますが、この性質をかくしもつて後代の男子に傳へる媒介をなすのは女なのです從つて結婚問題に際しても考慮が必要となるわけです。しかし人間のもつ本能はどんなものでも性的にしろ、また物慾や食慾はなほさらのこと、そのまゝではいちじるしく動物的なものになつてゐるとはいへ、これらの本能のよわい點は理性の一路をたどるのに反し、理性の本能をもつ民族の發展は偉大となりその文化は榮えるのが常であります、放浪性にしてもそれと同じに理性で理性や放浪やで形を變へ正しく導くならば決して犯罪や罪惡と結びつくやうな事がないのみか却つて進歩的な時局的なものとなつて來ます、卽ち海外發展や探檢などに活躍するのは多くこの性質によるもので、少くとも進取的な民族には放浪性の本能が[illegible]ことは出來ます（[illegible]醫學博士談）

ゆうもれすく　天才畫家

畫家、アトリエにて「おい〳〵、坊やがアトリエ（畫室）にはいつて來ないやうに、よく見てゐてくれなくつちや困るぢやないか。折角の繪を、こんなによごしてしまつたんだよ」

畫家の妻驚いて、アトリエにかけつけて「讀みませんでした、つい油斷してゐましたんだから…」とすなほにあやまりながら、さて、そこらに置いてある繪を見廻して「ねえ、あなた、坊やがよごした繪は、どれなんですの？」



非常時代　婦人スナップ

モンペ姿で　りゝしく活動する

鳥取縣の婦人團體

（鳥取通信）鳥取縣鳥取村婦人會並び國防婦人會ではかねてから農家の生活改善に努めてゐた農村婦人の服裝として今回野良仕事のすべてが婦人達の手に託されたので「男になつて大いに働き、出征軍人に心配をかけぬやう」[illegible]をとつて銃後のまもりにふるひたち、鳥取縣村の銃後に奮起しまた一國防婦人會地方は農繁が盛んなので、年ごろの娘も手足をまつくろにして働き、モンペ姿も凛しく活動し、さらに慰問品の蒐集、慰問袋、[illegible]などを申し合[illegible]

……第百五十三回……

態度變心【二】

二人は、恰も默契にかゝつた樣にたゞもう何氣なく、お互にはづかしさうに、狹どこにもぐり込んだ。

× × ×

綾子の家では、野頭持ち惚た瀬野が歸らうとするところだつた。

「ほんとにどうしたんでしよね。えゝ早百合さん。こんなことは初めてよ。ねえ、をばさん？」

綾子は尚々心配でならないといつた顏で、不安さうに言ふのだつた。

「さうですねえ」

と、內儀さんも小首を傾げて、

「どつかへ泊つたのかもしれませんわ」

「それにしても、何處へ泊つたのかな。綾子さん、心當りはないの？」

「ありませんわ」

「兎に角、それぢや、僕はこれで失敬します。歸つたらよろしく」

と、瀬野は帽子を取つて起つた

「ほんとにお氣の毒でしたわねえ」

× × ×

杏二はその翌日午後、會社から歸りに、瀬乃が間借してゐる家へ行つてみた。

杏二は昨夜小倉に聞いた一件も氣になつてゐたが、それよりも、この日は丁度瀬乃の七七四十九日に相當するので、今一度杏んなと今晩此家へ來まつて、心ばかりの法事をしたかつたのである。それにはいさゝか用意も入るので此家の內儀さんに就事を頼まうと思つたのである。

この家も既に本人が死んだとなれば、借りてゐた部屋も明けていいのであるが、杏二は死者に對する心遣しから、せめて四十九日が濟むまではそのまゝにしておきたかつたのだ。遺骨も箱に入れたまゝ、床の間に安置してあるので、四十九日が濟んだら、娘のお市の許へ送り屆けたいと考へてゐたのだつた。

杏二は先づ第一に、昨夜聞いた意外な事實、小倉の話や、今日會社へ瀬野から電話がかゝつてきて昨夜の顛末を知つたので、愈々半信半疑の思ひが深くなり、兎も角この家で訊ねて見ようとしたのだ。

その杏二をして全く心から愕然として驚かしたのは！

云ふまでもなく、小倉の話しの通り、そしてまた綾子が話しをした通り、死んだ筈の當人が、瀬乃が、現在生きて、ぴん〳〵して、……尤も、彼女は元々弱い女なので、たいして元氣ではないが、死もせず生きてものを言つてゐるのは紛ふ方なき目前の事實だつたのである！

丁度、杏二が入口を入つて、上へ上らうとした時に、とつつきの部屋の前で、此家の內儀と話しをしてゐる瀬乃を見たので、その瞬間杏二は自分の眼をパチ〳〵させたくて、暫しは口もきけず、茫然とそこへ立ち竦んでしまつたのである。

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）

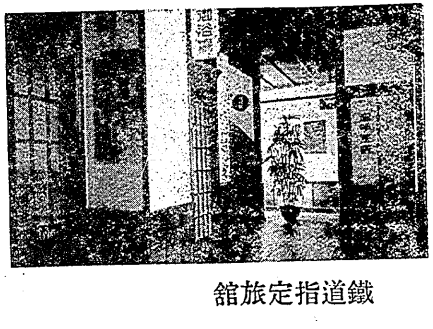
喜多流謠曲と仕舞の
お稽古をお奬め致します
入會隨時
喜多流　謠曲　仕舞
白土會
平市田町六九
電話二一七番

外科內臟外科　院長　安齋徹
X光線科
―新設―
産婦人科　醫學士　黑澤廣
▽入院隨意△
平市田町
安齋醫院
電話四七五番

かまぼこ製造
折詰仕出し
お惣菜用、さつま揚、吉原揚……
丕孫寅
平市一丁目　電話一四一番
◎配達員至急入用委細面談

平病院（電六四一番）
平市警察署側〔元共濟病院跡〕
院主　醫學博士　鈴木定藏
內科　小兒科　院長　鈴木定藏
一般外科　內臟外科　副院長　高橋俊幸
皮膚泌尿器科　レントゲン科　物理的療法科　部長　鈴木定藏
藥劑科　部長　吉本孝平
◎診療時間　毎日午前八時ヨリ午後九時迄
（夜間診療ニ從事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）
往診隨時
病室完備…入院隨時〔自炊ノ便アリ〕
入院料　一日　特等貳圓・一等壹圓五拾錢・二等壹圓參拾錢

家傳　安流丸
梅毒と
たい毒
吹出物に
はれものは
安流丸
に限る
阿部藥舖
平市田町



鐵道指定旅館
割烹　小瀧
電話小名濱一〇三番

旅館
大東館
私は平市出生ですから特に郷里の皆様方の爲に御便利を圖ります
主人　比佐棟雄
東京上野驛前（下谷郵便局横通角）
電話下谷六六七七番

メガネは！
平市二丁目
玉屋

美味！
芳醇！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

冬物は
是非！
當店から
（在庫豊富）
玉屋洋品店
平田町通　電話六五六番

秋！食慾の秋！
季節向
なべやき
天ぷらそば
何卒御試食下さい、多少に拘らず迅速に配達致します
平市田町
やぶそば
電話四番

花柳病科外科
木村外科醫院
平市六丁目橋際　電話三〇九

鐵材金物工具
クレオソート　壹圓六拾錢
精製コールタール　壹圓五拾錢
平市仲町通り
山田文一商店
電話二六二番